

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																
国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校	平成5年3月25日	矢口 博士	〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-11-12 (電話) 043-242-0466																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																
学校法人中村学園	昭和41年8月15日	中村 洋子	〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-14-13 (電話) 043-242-0467																
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士														
商業実務	商業実務専門課程	エアライン科キャビンアテンダントコース		平成27年2月19日	-														
学科の目的	企業と連携して行う授業科目を取り入れ、業界全般の専門知識、技術力、ホスピタリティ・マインドを身に付ける教育課程とし、即戦力として活躍する意思と能力を持った人材を育成し、多様化し続ける業界に対応できる逞しい人材を輩出することを目的とする。																		
認定年月日	令和2年3月25日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
2年	昼間	1770	720	1050	0	0	0												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の)	専任教員数	兼任教員数	総教員数														
60人	10人	0人	28人の内数2人	100人の内数26人	128人の内数28人														
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 各学年、各学期毎に評価試験・出席率・平常点に基づいて行う。成績の評定は、A=優・B=良・C=可・D=不可で行い、A～C評価を「認定」、D評価を「不認定」とする。4段階評価が困難な場合には、R評価を「認定」、D評価を「不認定」とする。															
長期休み	■夏期：8月1日～8月31日 ■冬期：12月26日～1月5日 ■春期：3月21日～4月10日		卒業・進級条件	1.【卒業】各科で規定する卒業基準単位を取得する。 【進級】各学期における各科規定単位を全て取得する。 2. 所定の期日までに学費を納入する。															
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 各期においてクラス担任による面談を実施。その他、随時必要に応じて個人面談及び保護者面談も行う。学生状況は全職員に学生システム及び会議内で共有され、各室連携し、対応する。		課外活動	■課外活動の種類 ・生徒会組織(SAM)によるイベント立案、実行 ・小学生職業体験会(キッズハッピープロジェクト)のサポートスタッフ ・スポーツ大会実行委員 ・学園祭実行委員 ■サークル活動：有															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和1年度卒業生) エアライン業界等 ■就職指導内容 専任の就職担当による徹底した個別指導を通じて、各学生の希望や特性に合った企業紹介から進路決定に至るまで一貫指導を行う。就職活動を成功に導くための各種プログラム及び教育課程を編成している。 ■卒業生数：4人 ■就職希望者数：4人 ■就職者数：4人 ■就職率：100% ■卒業生に占める就職者の割合：100% ■その他なし (令和1年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等(令和1年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アマデウスシステム検定初級</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>サービス介助士</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table> ■自由記述欄なし				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	アマデウスシステム検定初級	③	4人	1人	サービス介助士	③	4人	4人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
アマデウスシステム検定初級	③	4人	1人																
サービス介助士	③	4人	4人																
中途退学の現状	■中途退学者 0名 令和1年4月1日時点において、在学者10名(令和1年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者10名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 - ■中退防止・中退者支援のための取組 学生面談において、学生状況の把握を行い早期解決に向けた取り組みを行う。保護者面談等を実施し、全教職員で学生システム及び会議内で共有し、各室連携して対応に当たる。なお、経済的理由の場合には、各学期において夜間部への転科を認めており、クラス不適合等の場合は、夜間部を含めた転科(コース)を認める場合がある。また、学生相談のためのスクールカウンセラーを配置し、学外においてカウンセリングの場を提供している。		■中退率 0%																
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ・ホスピタリティ特待生制度：入学時ならびに2年進級時に能力・人格ともに優れており、他の模範となる学生を特待生として選出。授業料の一部を免除する制度。 ■専門実践教育訓練給付：非給付対象																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無																		
当該学科のホームページURL	https://www.ithb.ac.jp/course/hotel/																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育の質保証と向上を図るため、関連する業界の企業や団体等から求められるニーズや意見を集約し、有益なものについては、次年度の教育課程編成に反映させる。また授業内容の改善、工夫を随時していくことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校長または副校長が招集し年2回以上開催する。各学科の当年及び次年以降の教育課程について、委員会において科目編成や授業工夫・改善に関する意見を集約し、改めてカリキュラム会議において教育課程(案)を作成、職員会議・統括会議を経て校長または副校長が最終決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
津金 貴浩	一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	①
山口 晋司	千葉都市モノレール株式会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
酒井 大之	東日観光株式会社船橋支店	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
只隈 修一	株式会社日本旅行千葉支店	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
伊藤 弘美	イオンモールキッズドリーム合同会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
石井 光彦	株式会社旅行綜研	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
鈴木 繁	株式会社ジャッツ 成田空港事務所	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
岸本 達也	一般財団法人成田空港振興協会	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
山田 将人	株式会社エコパートナーズ	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
加藤 哲也	シティパークアンドサービス株式会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
風間 昭彦	ホテルニューオータニ幕張	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
山下 裕乃	株式会社オータパブリケーションズ	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
飛田 和子	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	①

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(前期・後期各1回)

(開催日時(実績))

【令和1年度】

第1回: 令和1年8月 2日(金) 13:30-15:30

第2回: 令和2年2月21日(金) 13:30-15:30

【令和2年度】

第1回: 令和2年7月20日(月) 10:30-12:30

第2回: 令和3年1月18日(月) 13:30-15:30 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

■2019年度第2回教育課程編成委員会

授業見学の一環として、卒業研究代表プレゼンテーションを見学していただき感想やアドバイスを頂戴した。レポート作成に注力しがちであったが、アドバイスをもとに①自らが興味持ち考えテーマを選択する、②相手を意識して準備や発表を行うことを意識した授業運営を行う。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

観光業界の動向やニーズを捉え、企業と教育内容、指導方法等連携し、職業に必要な実務及び専門知識を育成するための演習及び実技等を行うことで業界で活躍する人材育成をすることを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

■演習・実技

教員(企業)はエアライン業界に必要とされる科目について実務に対する最新の知識を持ち、演習及び実技等における教育内容、指導方法、評価方法、課題・教材について学校と連携し、授業の運営を行い、成績評価・単位認定を行う。更なる工夫等を行えるよう修了後も連携し、改善を行っていく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
航空機研究	航空業界で働く上での基礎知識である航空機とその周囲で働くスタッフについて学ぶ。また、航空機事故事例から“空の安全”について考え、安全に対する意識を持って仕事ができるように理解を深める。	株式会社JALカーゴサービス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員は、授業・学生に対する指導力向上、及び業界動向を捉え専攻分野の専門教育を深化させ、実務に関する知識修得及び技能向上を図る。規則に則り、業務経験や能力に応じた適切な研修を計画的に受講する。また、業界に必要とされる各種検定取得等も推進する。受講後は、定められた報告書とともに学内においてフィードバックを行い、今後の学生指導・授業運営・教育課程編成に活用することを基本方針とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本文化を英語で紹介しよう」

(連携企業等：神田外語大学)

期間：令和1年7月27日(土) 対象：エアライン科教員

内容：空の玄関口 空港では接客英語より一歩踏み込んだ会話力が必要とされる。

日本文化を英語で紹介するためのワーク活動を教員がサポートする方法を学ぶ。

連携内容：当該教育機関は、語学学習におけるセミナーを多数開催しており、教員が研修を受講することで連携している。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「Building Resilience」

(連携企業等：ラーニング・マスターズ株式会社)

期間：令和1年8月1日(木) 対象：全教職員

内容：自己分析を通してストレスをパワーに変える方法を学ぶ

連携内容：当該企業は、各種セミナーを行っており、教員が研修を受講することで連携している

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「Digital Materials and Devices for Teaching English」

(連携企業等：神田外語大学・神田外語学院)

期間：令和2年9月19日(土)または20日(日) 対象：夜間部教員

内容：英語授業のためのデジタル教材と機器について学ぶ

連携内容：当該教育機関は、語学学習におけるセミナーを多数開催しており、教員が研修を受講することで連携している。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生向け革新的思考能力向上講座」

(連携企業等：株式会社ビーコンラーニングサービス)

期間：令和2年8月18日(火) 対象：教務室教員

内容：「革新的思考法」を中核とした多様化する価値観の受容と思考のたが外しのプログラム

連携内容：当該企業は学校法人向けの研修を多く実施しており、教員が研修を受講することで連携している。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、学校が評価項目を設定し、自己評価を行う。自己評価結果は、地域や企業等委員で構成された学校関係者評価委員会において客観的な評価を受ける。全ての評価結果は専攻分野の教育活動及びその他学校運営の改善や工夫に活かしていく。また、自己評価、学校関係者評価ならびに改善方策等はホームページに公開し、広く社会へ公表することを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標 - 理念・目的・育成人材像、特色のある教育活動、将来構想
(2) 学校運営	(2) 学校運営 - 運営方針、事業計画、運営組織、コンプライアンス、情報公開、情報システム
(3) 教育活動	(3) 教育活動 - 目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、免許・資格取得の指導体制、教員・組織
(4) 学修成果	(4) 学修成果 - 就職率、免許・資格の取得率、卒業生・在校生の社会的評価 評価目標
(5) 学生支援	(5) 学生支援 - 就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、保護者との連携、卒業生・社会人、高校との連携
(6) 教育環境	(6) 教育環境 - 施設・設備等、学外実習・インターンシップ等、防災・安全管理
(7) 学生の受け入れ募集	(7) 学生の受け入れ募集 - 学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	(8) 財務 - 財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守 - 法令基準等の遵守、個人情報保護、学校評価
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献 - 社会貢献・地域貢献、ボランティア
(11) 国際交流	(11) 国際交流 - 留学生の受け入れ、留学生指導
-	(12) 職業実践専門課程 - 企業等と連携した教育課程の編成、実習・演習等の実施、教員に対する研修、学校関係者評価の実施、情報の公開・提供
-	(13) 観光・ブライダル分野における教育の質保証、特徴化に向けた取組 - 教育体制、特色のある教育、学修成果

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教育環境のうち校外学習・インターンシップに関する設問に関して、委員より実習についてはエアライン業界に拘らず、異業界(ホテル等)で行うことで気付きや成長できるのではないかと意見を頂戴した。職業実践専門課程を考える学科・業界の連動が必要ではあるが、教育効果として考えると仰るとおりである。短期で取り入れるなど、柔軟に検討する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
原田 正隆	千葉市民活動支援センター	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	地域
小亀 さおり	元公務員	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	地域
山口 晋司	千葉都市モノレール株式会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
横山 隆	株式会社千葉京成ホテル	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
岩崎 正佳	株式会社両総観光	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
齊藤 信也	ANAスカイビルサービス株式会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL : <https://www.ithb.ac.jp/information/>

公表時期: 令和2年11月頃公表予定

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則り、社会全体への情報提供し、説明責任を遂行する。また、企業との連携に資するため、特色ある教育活動及び学校運営に関する正確かつ適切な情報を積極的に提供する。情報やデータについては、収集・整理・更新を組織的に行い、継続的に質の保証・向上に向けて情報提供へ取り組むことを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学園情報、学校基本情報、経営方針、危機管理への取組状況
(2) 各学科等の教育	在籍数・卒業後の進路、就職先企業、入学者の受け入れ方針 学科・コースの教育、目指す資格・検定一覧、資格レポート 主要資格・検定合格率一覧、カリキュラム(シラバス)
(3) 教職員	教職員(教職員数、組織図、教員の専門性に関する情報) 教職員研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリアプラン、就職支援、企業実習
(5) 様々な教育活動・教育環境	クラブ・サークル、スクールイベント
(6) 学生の生活支援	学生サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、学費サポート
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価、教育課程編成委員会議事録 学校関係者評価委員会議事録
(10) 国際連携の状況	留学生ホームページ、海外交流、留学制度
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL : <https://www.ithb.ac.jp/information/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科キャビンアテンダントコース) 令和2年度																	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
○			ホスピタリティⅠ・Ⅱ	様々なワークを通して「相手の立場に立って考え、相手を慮る心」であるホスピタリティマインドを育成し、あらゆるタイプの人も上手に交流できるようになる人材を育成する。	1通	30	2		○		○			○			
○			ビジネスコミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ	社会人として必要なビジネスマナーを理解・実行できることを目標に挨拶や言葉遣い、接遇を学ぶ。	1前 2通	45	3	○	△		○				○		
○			Let's Speak EnglishⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	異なる国や文化の人々と積極的にコミュニケーションを身に付けるためにシンプルなキーセンテンスを応用して使えるような会話、リスニング、アクティビティを練習する。	1通 2通	60	4			○	○				○		
○			キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ	自己分析や社会の中での自分の強みや他者理解を学び、就職活動だけではなく、学生生活や対人関係、将来の仕事などに必要な姿勢を養い、社会に必要とされる人材を育成する。	1通 2前	120	8			○	○			○			
○			パソコン	パソコン検定3級以上の入力速度アップを目標とし、ワード・エクセルを含めたパソコン操作の基本を例題を作成しながら習得する。	1前	15	1			○	○				○		
○			就職筆記対策Ⅰ・Ⅱ	就職試験に多く用いられるSPI対策を中心に、就職活動における採用試験の“絞り込み”に勝ち残る基礎学力と仕事をする上で必要な基礎学力を身につける。	1通	30	2	○			○				○		
○			脳力開発Ⅰ・Ⅱ	心身ともに健康な状態で、社会人として長く活躍できるよう、メンタルトレーニングを中心とした脳の働き（脳力）を高める実践方法を学ぶ。	2通	30	2			○	○				○		
○			卒業研究Ⅰ・Ⅱ	自身の興味ある観光関連の中からテーマを決め、レポートを作成する。今まで学校で学び得た知識や経験などから情報を集め研究する。講師から指導を受けながら卒業までにまとめる。	2通	60	4			○	○			○			
○			国際交流	校内で異文化に触れることが出来る環境を活かし、留学生との交流を通して「文化」「習慣」の違いを学び、お互いへの理解を深めることを目的とする。	2後	15	1			○	○				○		

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科キャビンアテンダントコース) 令和2年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			English Communication I・II・III・IV	ネイティブ講師による会話、スピーキング、アクティビティを中心に観光業務や留学で使える様々な英語力を身につける。	1通 2通	120	4		○		○			○		
○			TOEIC Advanced対策 I・II・III・IV	航空会社の合格基準を目標にリスニング・リーディングを行い、最終的にハイスコアを取得する。	1通 2通	210	12		○		○				○	
	○		英語基礎文法 I・II	英語学習において最も重要（コア）となる中学英文法をを理解し、TOEICや英会話に活用できるまでに定着させる。	1通	45	2	△	○		○				○	
		○	Ideas&Opinions I・II	国際語である英語で、自己表現と、議論ができるようになることを目的とし、学内のSpeech Contestの際に上位入賞を目指す。	1通	45	2	△	○		○				○	
○			エアライン企業研究 I・II	航空企業ホームページを使った企業研究、関連書籍を通しての企業理念、フィロソフィを理解する。さらにグループで話し合い、企業の特徴を活かした企画・提案を考える。	1通	30	2		○		○			○		
○			時事研究 I・II・III	日々のニュースに関心を持つことを目標に新聞を読む習慣を身につける。	1通 2前	45	3		○		○			○		
○			時事研究IV	日々のニュースに関心を持つことを目標に新聞を読む習慣を身につける。	2後	15	1		○		○			○		
○			観光英検対策 I・II	観光英検の取得を目指すとともに、観光業界特有の英語の言い回しや業務遂行に必要な英語力をつける。さらに英語で観光に必要な文化、地理、歴史の知識も併せて身につける。	1通	30	2		○		○				○	
		○	中国語 I・II・III・IV	観光やビジネスで年々日本に来る中国人が増加している現状を鑑みて中国語の基本的な発音から始まり、日常会話から空港でよく使われるフレーズの会話まで習得する。	1通 2通	120	4		○		○				○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科キャビンアテンダントコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	映像を用いた授業で韓国語を目で見て・耳で聞き・口から発話することを反復練習し、場面に応じた実用的な会話ができるようにする。	1通 2通	120	4	○			○			○	
○			エアライン概要Ⅰ・Ⅱ	前期は航空業界の基礎知識を学習し、後期は課題を通して業界の変わりゆく現状を理解・把握した上で、就職活動につなげていく。	1通	30	2	○			○				○
○			業界ガイド	航空業界へのガイダンスとして、空港内外の主な職種や業種について学び、航空業界に関する理解を深め、具体的な業務内容を学び、就職活動への足掛かりとする。	1前	15	1	○			○				○
○			CA入門	将来客室乗務員として働くために必要となる業界用語、2レター、旅客の出入国の流れについて学び、航空業界の基礎知識を習得する。	1前	15	1			○	○			○	
○			美育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	様々な課題にチャレンジすることにより、感性豊かな心、好奇心、強い精神力、教養、体力、柔軟性など、客室乗務員には、心と身体の強さと美しさを育む。	1通	45	3			○	○			○	
○			機内サービス実技演習Ⅰ・Ⅱ	機内モックアップを使用したロールプレイを中心に、サービス業務と保安業務の流れと動作を習得し、客室乗務員として働くための接客技術を基礎から学ぶ。	1通	30	2			○	○			○	
○			メイクアップ講座	自身の美しさを最大に引き出すメイクアップ理論と技術を基本から学ぶとともに、カラーコーディネートやTPOに合わせたメイク、リクルートメイクとヘアも併せて学ぶ。	1前	15	1			○	○				○
○			ワールドディステーションズⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	世界地図を使って、地図の読み方や世界の主要な国・首都・都市の具体的な位置の把握、エリアや気候を把握する。	1通 2通	90	4	○			○				○
○			アマデウスⅠ・Ⅱ	全世界の航空会社や旅行会社にとって必要不可欠なシステムとなっているアマデウスの国際線予約基本操作を習得し、アマデウスシステム検定試験Specialist資格取得を目指す。	1通	45	3			○	○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科キャビンアテンダントコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Airline English I・II・III	航空業界で働く際に遭遇する場面での「使えるフレーズ」を覚えることで、英語での対応能力を養う。	1後 2通	45	3			○	○			○	
○			エアライン受験対策 I・II	面接試験の流れ・具体的なチェックポイントや言葉遣いを学習し、模擬面接や質疑応答の反復練習とフィードバックを繰り返し、表情や視線・立ち居振る舞い等の実践的なスキルを体得する。	1後 2前	30	2	△	○		○			○	
○			CA実務 I	機内販売で取り扱う商品について学び、各国通貨での支払いの計算方法を習得します。また、航空機事故や緊急事態の事例を学習することにより、保安要員としての役割を認識する。	1後	15	1	△	○		○		○		
○			CA実務 II	機内販売で取り扱う商品について学び、各国通貨での支払いの計算方法を習得します。また、航空機事故や緊急事態の事例を学習することにより、保安要員としての役割を認識する。	2前	15	1	○	△		○		○		
○			センスアップ講座	前期の授業「メイクアップ講座」の基礎知識をもとに、面接試験・写真撮影等をフォーカスした最高の自分を表現するヘアメイクや立ち居振る舞いを模擬面接試験を行いながら身につける。	1後	15	1		○		○			○	
○			TOEIC Advanced集中講座	図表や文脈を解釈をする新方式の問題に慣れ、客室乗務員採用条件の、必要最低点数TOEICスコア以上取得を目指す。	1後	30	2	○			○			○	
○			Airport Study	成田国際空港と羽田空港で実際に活躍している航空関連企業を見学し、業務内容や現場を知る。また、企業より直接講義や説明を受けることで航空業界の現状を直に学ぶ。	1後	30	2		○		○		○		
○			海外語学研修	空港でのチェックイン、国際線における客室乗務員の業務など、座学で習得した知識を実際に体験するとともに海外生活を通して英語コミュニケーションスキルを磨き、異文化を理解する。	1後	30	2		○		○			○	
○			外客接遇 I・II	日本人と外国人の価値観や習慣の違いを理解し、それぞれに相応しい「おもてなし」を考える。	2通	30	2		○		○		○		

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科キャビンアテンダントコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			パソコンスキルⅠ・Ⅱ	例文をみて、ビジネス文書を作成、エクセルデータをグラフ化し視覚的分析力を修得する。また、パワーポイント操作などを学びプレゼンテーション資料の作成を修得する。	2通	30	2		○		○			○	
○			English Interview	英語面接試験の目的、企業や国ごとの傾向と対策を学び、各自が効果的に英語で自己表現できる方法を見つける事を目的とする。	2前	15	1		○		○			○	
○			航空機研究	航空業界で働く上での基礎知識である航空機とその周囲で働くスタッフについて学ぶ。また、航空機事事故事例から“空の安全”について考え、安全に対する意識をもって仕事ができるように理解を深める。	2前	15	1		○		○			○	○
○			異文化理解Ⅰ(韓国)・Ⅱ(中国)	韓国・中国から来日したお客様に円滑に対応できるように各国の事情を理解し、教養を身につける。	2通	30	2	○			○			○	
○			ワイン入門	CAの「空飛ぶソムリエ」としての役割と仕事を理解し、基礎的なワインの知識を学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
○			国内観光地理Ⅰ・Ⅱ	日本の有名観光資源について、基本的情報を学び、さらには「国内旅行を楽しむ3テーマ」(駅弁・日本神話のふるさと・日本のパワースポット)を理解すること。	2通	30	2	○			○			○	
○			電話対応ベーシックⅠ・Ⅱ	発声・発音、電話の受け方・かけ方、定型的な言い回し、伝言メモの書き方等電話対応の基礎を固め、実践ですぐに役に立つ電話対応を学ぶ。	2通	30	2		○		○			○	
○			手話講座Ⅰ・Ⅱ	実際に聴覚障害者を持つ人との日常的な接し方、バリアフリー・コミュニケーションの手段を学ぶ。また、接客に対応できるよう簡単な手話表現技術を習得する。	2通	30	2		○		○			○	
○			空港あれこれ	「新幹線」と「航空」の構造を比較し、利用者の観点から航空利用にあたっての必要不可欠な知識を学習する。	2後	15	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科キャビンアテンダントコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			リスクマネジメント	空港や機内などでのとっさの手当や予防に役立つ知識の習得及び災害時に起きることや取るべき行動について学ぶ。また、赤十字ベーシックライフサポーター資格の取得を目指す。	2後	15	1	○			○		○		
合計					43科目		1770単位時間(105単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1. 卒業基準単位の取得、2. 定められた期日までに学費を納入	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																
国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校	平成5年3月25日	矢口 博士	〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-11-12 (電話) 043-242-0466																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																
学校法人中村学園	昭和41年8月15日	中村 洋子	〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-14-13 (電話) 043-242-0467																
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士														
商業実務	商業実務専門課程	エアライン科エアポートサービスコース		平成27年2月19日	-														
学科の目的	企業と連携して行う授業科目を取り入れ、業界全般の専門知識、技術力、ホスピタリティ・マインドを身に付ける教育課程とし、即戦力として活躍する意思と能力を持った人材を育成し、多様化し続ける業界に対応できる逞しい人材を輩出することを目的とする。																		
認定年月日	令和2年3月25日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
2年	昼間	1755	750	1005	0	0	0												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の)	専任教員数	兼任教員数	総教員数														
60人	45人	0人	28人の内数2人	100人の内数26人	128人の内数28人														
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 各学年、各学期毎に評価試験・出席率・平常点に基づいて行う。成績の評定は、A=優・B=良・C=可・D=不可で行い、A～C評価を「認定」、D評価を「不認定」とする。4段階評価が困難な場合には、R評価を「認定」、D評価を「不認定」とする。															
長期休み	■夏期：8月1日～8月31日 ■冬期：12月26日～1月5日 ■春期：3月21日～4月10日		卒業・進級条件	1.【卒業】各科で規定する卒業基準単位を取得する。 【進級】各学期における各科規定単位を全て取得する。 2. 所定の期日までに学費を納入する。															
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 各期においてクラス担任による面談を実施。その他、随時必要に応じて個人面談及び保護者面談も行う。学生状況は全職員に学生システム及び会議内で共有され、各室連携し、対応する。		課外活動	■課外活動の種類 ・生徒会組織(SAM)によるイベント立案、実行 ・小学生職業体験会(キッズハッピープロジェクト)のサポートスタッフ ・スポーツ大会実行委員 ・学園祭実行委員 ■サークル活動：有															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和1年度卒業生) エアライン業界等 ■就職指導内容 専任の就職担当による徹底した個別指導を通じて、各学生の希望や特性に合った企業紹介から進路決定に至るまで一貫指導を行う。就職活動を成功に導くための各種プログラム及び教育課程を編成している。 ■卒業生数：24人 ■就職希望者数：23人 ■就職者数：23人 ■就職率：100% ■卒業生に占める就職者の割合：95.8% ■その他なし (令和1年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3 ■自由記述欄なし	■国家資格・検定/その他・民間検定等(令和1年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アマデウスシステム検定初級</td> <td>③</td> <td>26人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>中国語検定準4級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	アマデウスシステム検定初級	③	26人	17人	中国語検定準4級	③	13人	8人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
アマデウスシステム検定初級	③	26人	17人																
中国語検定準4級	③	13人	8人																
中途退学の現状	■中途退学者 1名 令和1年4月1日時点において、在学者47名(令和1年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者43名(令和2年3月31日卒業生を含む) ※差異4名の内訳：1名退学・1名エアライン科エアポートカーゴコースへ転科・2名夜間部エアライン科へ転科 ■中途退学の主な理由 エアライン業界への就職意欲喪失 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生面談において、学生状況の把握を行い早期解決に向けた取り組みを行う。保護者面談等を実施し、全教職員で学生システム及び会議内で共有し、各室連携して対応に当たる。なお、経済的理由の場合には、各学期において夜間部への転科を認めており、クラス不適合等の場合は、夜間部を含めた転科(コース)を認める場合がある。また、学生相談のためのスクールカウンセラーを配置し、学外においてカウンセリングの場を提供している。		■中退率 2.1%																
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ・ホスピタリティ特待生制度：入学時ならびに2年進級時に能力・人格ともに優れており、他の模範となる学生を特待生として選出。授業料の一部を免除する制度。 ■専門実践教育訓練給付：非給付対象																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無																		
当該学科のホームページURL	https://www.ithb.ac.jp/course/airline/																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育の質保証と向上を図るため、関連する業界の企業や団体等から求められるニーズや意見を集約し、有益なものについては、次年度の教育課程編成に反映させる。また授業内容の改善、工夫を随時していくことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校長または副校長が招集し年2回以上開催する。各学科の当年及び次年以降の教育課程について、委員会において科目編成や授業工夫・改善に関する意見を集約し、改めてカリキュラム会議において教育課程(案)を作成、職員会議・統括会議を経て校長または副校長が最終決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
津金 貴浩	一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	①
山口 晋司	千葉都市モノレール株式会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
酒井 大之	東日観光株式会社船橋支店	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
只隈 修一	株式会社日本旅行千葉支店	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
伊藤 弘美	イオンモールキッズドリーム合同会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
石井 光彦	株式会社旅行綜研	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
鈴木 繁	株式会社日本旅行 成田空港事務所	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
岸本 達也	一般財団法人成田空港振興協会	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
山田 将人	株式会社エコパートナーズ	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
加藤 哲也	シティパークアンドサービス株式会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
風間 昭彦	ホテルニューオータニ幕張	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
山下 裕乃	株式会社オータパブリケーションズ	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
飛田 和子	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	①

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(前期・後期各1回)

(開催日時(実績))

【令和1年度】

第1回: 令和1年8月 2日(金) 13:30-15:30

第2回: 令和2年2月21日(金) 13:30-15:30

【令和2年度】

第1回: 令和2年7月20日(月) 10:30-12:30

第2回: 令和3年1月18日(月) 13:30-15:30 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

■2019年度第2回教育課程編成委員会

授業見学の一環として、卒業研究代表プレゼンテーションを見学していただき感想やアドバイスを頂戴した。レポート作成に注力しがちであったが、アドバイスをもとに①自らが興味持ち考えテーマを選択する、②相手を意識して準備や発表を行うことを意識した授業運営を行う。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

観光業界の動向やニーズを捉え、企業と教育内容、指導方法等連携し、職業に必要な実務及び専門知識を育成するための演習及び実技等を行うことで業界で活躍する人材育成をすることを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

■演習・実技

教員(企業)はエアライン業界に必要とされる科目について実務に対する最新の知識を持ち、演習及び実技等における教育内容、指導方法、評価方法、課題・教材について学校と連携し、授業の運営を行い、成績評価・単位認定を行う。更なる工夫等を行えるよう修了後も連携し、改善を行っていく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
航空機研究	航空業界で働く上での基礎知識である航空機とその周囲で働くスタッフについて学ぶ。また、航空機事故事例から“空の安全”について考え、安全に対する意識を持って仕事ができるように理解を深める。	株式会社JALカーゴサービス
危険物取扱講座Ⅰ・Ⅱ	危険物の分類や危険性、危険物申告書の作成方法、マーキング・ラベリングの規則等といった知識を身につける。また、危険物に関する知識を通して航空安全に対する意識を醸成する。	株式会社JALカーゴサービス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員は、授業・学生に対する指導力向上、及び業界動向を捉え専攻分野の専門教育を深化させ、実務に関する知識修得及び技能向上を図る。規則に則り、業務経験や能力に応じた適切な研修を計画的に受講する。また、業界に必要とされる各種検定取得等も推進する。受講後は、定められた報告書とともに学内においてフィードバックを行い、今後の学生指導・授業運営・教育課程編成に活用することを基本方針とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本文化を英語で紹介しよう」

(連携企業等：神田外語大学)

期間：令和1年7月27日(土) 対象：エアライン科教員

内容：空の玄関口 空港では接客英語より一歩踏み込んだ会話力が必要とされる。

日本文化を英語で紹介するためのワーク活動を教員がサポートする方法を学ぶ。

連携内容：当該教育機関は、語学学習におけるセミナーを多数開催しており、教員が研修を受講することで連携している。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「Building Resilience」

(連携企業等：ラーニング・マスターズ株式会社)

期間：令和1年8月1日(木) 対象：全教職員

内容：自己分析を通してストレスをパワーに変える方法を学ぶ

連携内容：当該企業は、各種セミナーを行っており、教員が研修を受講することで連携している

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「Digital Materials and Devices for Teaching English」

(連携企業等：神田外語大学・神田外語学院)

期間：令和2年9月19日(土)または20日(日) 対象：夜間部教員

内容：英語授業のためのデジタル教材と機器について学ぶ

連携内容：当該教育機関は、語学学習におけるセミナーを多数開催しており、教員が研修を受講することで連携している。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名 「学生向け革新的思考能力向上講座」

(連携企業等： 株式会社ビーコンラーニングサービス)

期間： 令和2年8月18日(火) 対象： 教務室教員

内容： 「革新的思考法」を中核とした多様化する価値観の受容と思考のたが外しのプログラム

連携内容： 当該企業は学校法人向けの研修を多く実施しており、教員が研修を受講することで連携している。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、学校が評価項目を設定し、自己評価を行う。自己評価結果は、地域や企業等委員で構成された学校関係者評価委員会において客観的な評価を受ける。全ての評価結果は専攻分野の教育活動及びその他学校運営の改善や工夫に活かしていく。また、自己評価、学校関係者評価ならびに改善方策等はホームページに公開し、広く社会へ公表することを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標 -理念・目的・育成人材像、特色のある教育活動、将来構想
(2)学校運営	(2)学校運営 -運営方針、事業計画、運営組織、コンプライアンス、情報公開、情報システム
(3)教育活動	(3)教育活動 -目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、免許・資格取得の指導体制、教員・組織
(4)学修成果	(4)学修成果 -就職率、免許・資格の取得率、卒業生・在校生の社会的評価 評価目標
(5)学生支援	(5)学生支援 -就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、保護者との連携、卒業生・社会人、高校との連携
(6)教育環境	(6)教育環境 -施設・設備等、学外実習・インターンシップ等、防災・安全管理
(7)学生の受け入れ募集	(7)学生の受け入れ募集 -学生募集活動、入学選考、学納金
(8)財務	(8)財務 -財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守 -法令基準等の遵守、個人情報保護、学校評価
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献 -社会貢献・地域貢献、ボランティア
(11)国際交流	(11)国際交流 -留学生の受け入れ、留学生指導
-	(12)職業実践専門課程 -企業等と連携した教育課程の編成、実習・演習等の実施、教員に対する研修、学校関係者評価の実施、情報の公開・提供
-	(13)観光・ブライダル分野における教育の質保証、特徴化に向けた取組 -教育体制、特色のある教育、学修成果

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教育環境のうち校外学習・インターンシップに関する設問に関して、委員より実習についてはエアライン業界に拘らず、異業界(ホテル等)で行うことで気付きや成長できるのではないかとの意見を頂戴した。職業実践専門課程を考える学科・業界の連動が必要ではあるが、教育効果として考えると仰るとおりである。短期で取り入れるなど、柔軟に検討する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
原田 正隆	千葉市民活動支援センター	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	地域
小亀 さおり	元公務員	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	地域
山口 晋司	千葉都市モノレール株式会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
横山 隆	株式会社千葉京成ホテル	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
岩崎 正佳	株式会社両総観光	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
齊藤 信也	ANAスカイビルサービス株式会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL : <https://www.ithb.ac.jp/information/>

公表時期: 令和2年11月頃公表予定

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則り、社会全体への情報提供し、説明責任を遂行する。また、企業との連携に資するため、特色ある教育活動及び学校運営に関する正確かつ適切な情報を積極的に提供する。情報やデータについては、収集・整理・更新を組織的に行い、継続的に質の保証・向上に向けて情報提供へ取り組むことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学園情報、学校基本情報、経営方針、危機管理への取組状況
(2)各学科等の教育	在籍数・卒業後の進路、就職先企業、入学者の受け入れ方針 学科・コースの教育、目指す資格・検定一覧、資格レポート 主要資格・検定合格率一覧、カリキュラム(シラバス)
(3)教職員	教職員(教職員数、組織図、教員の専門性に関する情報) 教職員研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリアプラン、就職支援、企業実習
(5)様々な教育活動・教育環境	クラブ・サークル、スクールイベント
(6)学生の生活支援	学生サポート
(7)学生納付金・修学支援	学納金、学費サポート
(8)学校の財務	財務状況
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価、教育課程編成委員会議事録 学校関係者評価委員会議事録
(10)国際連携の状況	留学生ホームページ、海外交流、留学制度
(11)その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL : <https://www.ithb.ac.jp/information/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートサービスコース) 令和2年度																	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
○			ホスピタリティⅠ・Ⅱ	様々なワークを通して「相手の立場に立って考え、相手を慮る心」であるホスピタリティマインドを育成し、あらゆるタイプの人とも上手に交流できるようになる人材を育成する。	1通	30	2		○		○			○			
○			ビジネスコミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ	社会人として必要なビジネスマナーを理解・実行できることを目標に挨拶や言葉遣い、接遇を学ぶ。	1前 2通	45	3	○	△		○				○		
○			Let's Speak EnglishⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	異なる国や文化の人々と積極的にコミュニケーションを身に付けるためにシンプルなキーセンテンスを応用して使えるような会話、リスニング、アクティビティを練習する。	1通 2通	60	4			○	○				○		
○			キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ	自己分析や社会の中での自分の強みや他者理解を学び、就職活動だけではなく、学生生活や対人関係、将来の仕事などに必要な姿勢を養い、社会に必要とされる人材を育成する。	1通 2前	120	8			○	○			○			
○			パソコン	パソコン検定3級以上の入力速度アップを目標とし、ワード・エクセルを含めたパソコン操作の基本を例題を作成しながら習得する。	1前	15	1			○	○				○		
○			就職筆記対策Ⅰ・Ⅱ	就職試験に多く用いられるSPI対策を中心に、就職活動における採用試験の“絞り込み”に勝ち残る基礎学力と仕事をする上で必要な基礎学力を身につける。	1通	30	2	○			○				○		
○			脳力開発Ⅰ・Ⅱ	心身ともに健康な状態で、社会人として長く活躍できるよう、メンタルトレーニングを中心とした脳の働き（脳力）を高める実践方法を学ぶ。	2通	30	2			○	○				○		
○			卒業研究Ⅰ・Ⅱ	自身の興味ある観光関連の中からテーマを決め、レポートを作成する。今まで学校で学び得た知識や経験などから情報を集め研究する。講師から指導を受けながら卒業までにまとめる。	2通	60	4			○	○			○			
○			国際交流	校内で異文化に触れることが出来る環境を活かし、留学生との交流を通して「文化」「習慣」の違いを学び、お互いへの理解を深めることを目的とする。	2後	15	1			○	○				○		

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートサービスコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			English Communication I・II・III・IV	ネイティブ講師による会話、スピーキング、アクティビティを中心に観光業務や留学で使える様々な英語力を身につける。	1通 2通	120	4		○		○			○	
○			TOEIC対策 I・II・III・IV	航空会社の合格基準を目標にリスニング・リーディングを行い、最終的にハイスコアを取得する。	1通 2通	180	12		○		○			○	
○			英語基礎文法 I・II	英語学習において最も重要（コア）となる中学英文法をを理解し、TOEICや英会話に活用できるまでに定着させる。	1通	45	2	△	○		○			○	
○			Ideas&Opinions I・II	国際語である英語で、自己表現と、議論ができるようになることを目的とし、学内のSpeech Contestの際に上位入賞を目指す。	1通	45	2	△	○		○			○	
○			エアライン企業研究 I・II	航空企業ホームページを使った企業研究、関連書籍を通しての企業理念、フィロソフィを理解する。さらにグループで話し合い、企業の特徴を活かした企画・提案を考える。	1通	30	2		○		○			○	
○			時事研究 I・II・III	日々のニュースに関心を持つことを目標に新聞を読む習慣を身につける。	1通 2前	45	3		○		○			○	
○			時事研究IV	日々のニュースに関心を持つことを目標に新聞を読む習慣を身につける。	2後	15	1		○		○			○	
○			観光英検対策 I・II	観光英検の取得を目指すとともに、観光業界特有の英語の言い回しや業務遂行に必要な英語力を身に付け、さらに英語で観光に必要な文化、地理、歴史の知識を学ぶ。	1通	30	2		○		○			○	
○			中国語 I・II・III・IV	観光やビジネスで年々日本に来る中国人が増加している現状を鑑みて中国語の基本的な発音から始まり、日常会話から空港でよく使われるフレーズの会話まで習得する。	1通 2通	120	4		○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートサービスコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	映像を用いた授業で韓国語を目で見て・耳で聞き・口から発話することを反復練習し、場面に応じた実用的な会話ができるようにする。	1通 2通	120	4	○			○			○	
○			エアライン概要Ⅰ・Ⅱ	前期は航空業界の基礎知識を学習し、後期は課題を通して業界の変わりゆく現状を理解・把握した上で、就職活動につなげていく。	1通	30	2	○			○			○	
○			業界ガイド	航空業界へのガイダンスとして、空港内外の主な職種や業種について学び、航空業界に関する理解を深め、具体的な業務内容を学び、就職活動への足掛かりとする。	1前	15	1	○			○			○	
○			空港旅客サービス入門	グランドスタッフの仕事を中心とし、免税店の仕事についても学ぶとともに空港勤務に必要な基礎知識を身に付けることで、航空業界への理解を深める。	1前	30	1		○		○		○		
○			カウンター実技演習Ⅰ・Ⅱ	カウンターモックアップを使用したロールプレイを中心に、チェックイン業務と搭乗ゲート業務の流れと動作を習得し、空港のグランドスタッフとして働くための接客技術を基礎から学ぶ。	1通	30	2		○		○		○		
○			メイクアップ講座	自身の美しさを最大に引き出すメイクアップ理論と技術を基本から学ぶとともに、カラーコーディネートやTPOに合わせたメイク、リクルートメイクとヘアも併せて学ぶ。	1前	15	1		○		○			○	
○			ワールドディステーションズⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	世界地図を使って、地図の読み方や世界の主要な国・首都・都市の具体的な位置の把握、エリアや気候を把握する。	1通 2通	90	4	○			○			○	
○			アマデウスⅠ・Ⅱ	全世界の航空会社や旅行会社にとって必要不可欠なシステムとなっているアマデウスの国際線予約基本操作を習得し、アマデウスシステム検定試験Specialist資格取得を目指す。	1通	45	3		○		○		○		
○			Airline EnglishⅠ・Ⅱ・Ⅲ	航空業界で働く際に遭遇する場面での「使えるフレーズ」を覚えることで、英語での対応能力を養う。	1後 2通	45	3		○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートサービスコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エアライン受験対策Ⅰ・Ⅱ	面接試験の流れ・具体的なチェックポイントや言葉遣いを学習し、模擬面接や質疑応答の反復練習とフィードバックを繰り返す、表情や視線・立ち居振る舞い等の実践的なスキルを体得する。	1後 2前	30	2	△	○		○			○	
○			空港旅客サービス実務Ⅰ・Ⅱ	飛行機が到着し出発するまでの一連の業務についての知識を身に付け、さらに空港接客系企業の講演を授業内で行い、受験企業の選択や企業研究等、就職活動に活かす。	1後 2前	45	3	○			○		○		
○			英語面接対策	テキストやプリント・板書を極力使用せず、聞いて話すことに重点を置いた授業を行い、間違いを恐れず英語をコミュニケーションツールとして使える力を身につける。	1後	15	1		○		○			○	
○			センスアップ講座	前期の授業「メイクアップ講座」の基礎知識をもとに、面接試験・写真撮影等をフォーカスした最高の自分を表現するヘアメイクや立ち居振る舞いを模擬面接試験を行いながら身につける。	1後	15	1		○		○			○	
○			TOEIC集中講座	スニングセクション、リーディングセクション共に、各パートに対応する実力強化を目標にTOEICテスト受験直前対策として、より実践的な問題を中心に演習を行う。	1後	30	2	○			○			○	
○			Airport Study	成田国際空港と羽田空港で実際に活躍している航空関連企業を見学し、業務内容や現場を知る。また、企業より直接講義や説明を受けることで航空業界の現状を直に学ぶ。	1後	30	2		○		○		○		
○			海外語学研修	空港でのチェックイン、国際線における客室乗務員の業務など、座学で習得した知識を実際に体験するとともに海外生活を通して英語コミュニケーションスキルを磨き、異文化を理解する。	1後	30	2		○		○			○	
○			外客接遇Ⅰ・Ⅱ	日本人と外国人の価値観や習慣の違いを理解し、それぞれに相応しい「おもてなし」を考える。	2通	30	2		○		○		○		

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートサービスコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			パソコンスキルⅠ・Ⅱ	例文をみて、ビジネス文書を作成、エクセルデータをグラフ化し視覚的分析力を修得する。また、パワーポイント操作などを学びプレゼンテーション資料の作成を修得する。	2通	30	2		○		○			○	
○			エアカーゴ入門	国際航空貨物の発展と基礎的な輸送の流れを学び、日々目にする商品・製品がどのように自分たちの手元に届くのか。また、その輸送途上でどのような作業・業務が行われているかを学ぶ。	2前	15	1		○		○		○		
○			航空機研究	航空業界で働く上での基礎知識である航空機とその周囲で働くスタッフについて学ぶ。また、航空機事事故例から“空の安全”について考え、安全に対する意識をもって仕事ができるように理解を深める。	2前	15	1			○				○	○
○			危険物取扱講座Ⅰ・Ⅱ	危険物の分類や危険性、危険物申告書の作成方法、マーキング・ラベリングの規則等といった知識を身につける。また、危険物に関する知識を通して航空安全に対する意識を醸成する。	2通	30	2	○			○			○	○
○			異文化理解Ⅰ(韓国)・Ⅱ(中国)	韓国・中国から来日したお客様に円滑に対応できるように各国の事情を理解し、教養を身につける。	2通	30	2	○			○			○	
○			国内観光地理Ⅰ・Ⅱ	日本の有名観光資源について、基本的情報を学び、さらには「国内旅行を楽しむ3テーマ」(駅弁・日本神話のふるさと・日本のパワースポット)を理解すること。	2通	30	2	○			○			○	
○			電話対応ベーシックⅠ・Ⅱ	発声・発音、電話の受け方・かけ方、定型的な言い回し、伝言メモの書き方等電話対応の基礎を固め、実践ですぐに役に立つ電話対応を学ぶ。	2通	30	2		○		○			○	
○			手話講座Ⅰ・Ⅱ	実際に聴覚障害者を持つ人との日常的な接し方、バリアフリー・コミュニケーションの手段を学ぶ。また、接客に対応できるよう簡単な手話表現技術を習得する。	2通	30	2		○		○			○	
○			空港あれこれ	新しい空港名やLCCの動向等航空業界の各種最新トピックスについて学ぶ。また、「新幹線VS航空」の観点から今後の国内旅客運送の動向を推測し、把握する。	2後	15	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートサービスコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			リスクマネジメント	空港や機内などでのとっさの手当や予防に役立つ知識の習得及び災害時に起きることや取るべき行動について学ぶ。また、赤十字ベーシックライフサポーター資格の取得を目指す。	2後	15	1	○			○		○		
合計				43科目	1755単位時間(105単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1. 卒業基準単位の取得、2. 定められた期日までに学費を納入	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																
国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校	平成5年3月25日	矢口 博士	〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-11-12 (電話) 043-242-0466																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																
学校法人中村学園	昭和41年8月15日	中村 洋子	〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-14-13 (電話) 043-242-0467																
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士														
商業実務	商業実務専門課程	エアライン科エアポートカーゴコース		平成27年2月19日	-														
学科の目的	企業と連携して行う授業科目を取り入れ、業界全般の専門知識、技術力、ホスピタリティ・マインドを身に付ける教育課程とし、即戦力として活躍する意思と能力を持った人材を育成し、多様化し続ける業界に対応できる逞しい人材を輩出することを目的とする。																		
認定年月日	令和2年3月25日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
2年	昼間	1725	810	855	60	0	0												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の)	専任教員数	兼任教員数	総教員数														
60人	14人	0人	28人の内数2人	100人の内数26人	128人の内数28人														
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 各学年、各学期毎に評価試験・出席率・平常点に基づいて行う。成績の評定は、A=優・B=良・C=可・D=不可で行い、A～C評価を「認定」、D評価を「不認定」とする。4段階評価が困難な場合には、R評価を「認定」、D評価を「不認定」とする。															
長期休み	■夏期：8月1日～8月31日 ■冬期：12月26日～1月5日 ■春期：3月21日～4月10日		卒業・進級条件	1.【卒業】各科で規定する卒業基準単位を取得する。 【進級】各学期における各科規定単位を全て取得する。 2. 所定の期日までに学費を納入する。															
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 各期においてクラス担任による面談を実施。その他、随時必要に応じて個人面談及び保護者面談も行う。学生状況は全職員に学生システム及び会議内で共有され、各室連携し、対応する。		課外活動	■課外活動の種類 ・生徒会組織(SAM)によるイベント立案、実行 ・小学生職業体験会(キッズハッピープロジェクト)のサポートスタッフ ・スポーツ大会実行委員 ・学園祭実行委員 ■サークル活動：有															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和1年度卒業生) エアライン業界等 ■就職指導内容 専任の就職担当による徹底した個別指導を通じて、各学生の希望や特性に合った企業紹介から進路決定に至るまで一貫指導を行う。就職活動を成功に導くための各種プログラム及び教育課程を編成している。 ■卒業生数：8人 ■就職希望者数：8人 ■就職者数：8人 ■就職率：100% ■卒業者に占める就職者の割合：100% ■その他なし (令和1年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等(令和1年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アマデウスシステム 検定初級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ディプロマ基礎コース</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table> ■自由記述欄なし				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	アマデウスシステム 検定初級	③	8人	4人	ディプロマ基礎コース	③	8人	8人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
アマデウスシステム 検定初級	③	8人	4人																
ディプロマ基礎コース	③	8人	8人																
中途退学の現状	■中途退学者 0名 令和1年4月1日時点において、在学者11名(令和1年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者11名(令和2年3月31日卒業生を含む) ※1名休学・1名エアライン科エアポートサービスコースから転科 ■中途退学の主な理由 - ■中退防止・中退者支援のための取組 学生面談において、学生状況の把握を行い早期解決に向けた取り組みを行う。保護者面談等を実施し、全教職員で学生システム及び会議内で共有し、各室連携して対応に当たる。なお、経済的理由の場合には、各学期において夜間部への転科を認めており、クラス不適合等の場合は、夜間部を含めた転科(コース)を認める場合がある。また、学生相談のためのスクールカウンセラーを配置し、学外においてカウンセリングの場を提供している。		■中退率 0%																
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ・ホスピタリティ特待生制度：入学時ならびに2年進級時に能力・人格ともに優れており、他の模範となる学生を特待生として選出。授業料の一部を免除する制度。 ■専門実践教育訓練給付：非給付対象																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無																		
当該学科のホームページURL	https://www.ithb.ac.jp/course/airline/																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育の質保証と向上を図るため、関連する業界の企業や団体等から求められるニーズや意見を集約し、有益なものについては、次年度の教育課程編成に反映させる。また授業内容の改善、工夫を随時していくことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校長または副校長が招集し年2回以上開催する。各学科の当年及び次年以降の教育課程について、委員会において科目編成や授業工夫・改善に関する意見を集約し、改めてカリキュラム会議において教育課程(案)を作成、職員会議・統括会議を経て校長または副校長が最終決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
津金 貴浩	一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	①
山口 晋司	千葉都市モノレール株式会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
酒井 大之	東日観光株式会社船橋支店	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
只隈 修一	株式会社日本旅行千葉支店	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
伊藤 弘美	イオンモールキッズドリーム合同会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
石井 光彦	株式会社旅行綜研	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
鈴木 繁	株式会社ジャッツ 成田空港事務所	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
岸本 達也	一般財団法人成田空港振興協会	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
山田 将人	株式会社エコパートナーズ	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
加藤 哲也	シティパークアンドサービス株式会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
風間 昭彦	ホテルニューオータニ幕張	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
山下 裕乃	株式会社オータパブリケーションズ	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
飛田 和子	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	①

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(前期・後期各1回)

(開催日時(実績))

【令和1年度】

第1回: 令和1年8月 2日(金) 13:30-15:30

第2回: 令和2年2月21日(金) 13:30-15:30

【令和2年度】

第1回: 令和2年7月20日(月) 10:30-12:30

第2回: 令和3年1月18日(月) 13:30-15:30 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

■2019年度第2回教育課程編成委員会

授業見学の一環として、卒業研究代表プレゼンテーションを見学していただき感想やアドバイスを頂戴した。レポート作成に注力しがちであったが、アドバイスをもとに①自らが興味持ち考えテーマを選択する、②相手を意識して準備や発表を行うことを意識した授業運営を行う。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

観光業界の動向やニーズを捉え、企業と教育内容、指導方法等連携し、職業に必要な実務及び専門知識を育成するための演習及び実技等を行うことで業界で活躍する人材育成をすることを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

■演習・実技

教員(企業)はエアライン業界に必要とされる科目について実務に対する最新の知識を持ち、演習及び実技等における教育内容、指導方法、評価方法、課題・教材について学校と連携し、授業の運営を行い、成績評価・単位認定を行う。更なる工夫等を行えるよう修了後も連携し、改善を行っていく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
航空機研究	航空業界で働く上での基礎知識である航空機とその周囲で働くスタッフについて学ぶ。また、航空機事故事例から“空の安全”について考え、安全に対する意識を持って仕事ができるように理解を深める。	株式会社JALカーゴサービス
危険物取扱講座Ⅰ・Ⅱ	危険物の分類や危険性、危険物申告書の作成方法、マーキング・ラベリングの規則等といった知識を身につける。また、危険物に関する知識を通して航空安全に対する意識を醸成する。	株式会社JALカーゴサービス
ディプロマ対策Ⅱ	IATAディプロマ(国際航空貨物輸送士)資格取得を目指し、過去問題集や業界団体主催の講習会問題集の解説・演習を中心に国際航空貨物取扱いに必要な基礎知識を修得する。	株式会社JALカーゴサービス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員は、授業・学生に対する指導力向上、及び業界動向を捉え専攻分野の専門教育を深化させ、実務に関する知識修得及び技能向上を図る。規則に則り、業務経験や能力に応じた適切な研修を計画的に受講する。また、業界に必要とされる各種検定取得等も推進する。受講後は、定められた報告書とともに学内においてフィードバックを行い、今後の学生指導・授業運営・教育課程編成に活用することを基本方針とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本文化を英語で紹介しよう」

(連携企業等：神田外語大学)

期間：令和1年7月27日(土) 対象：エアライン科教員

内容：空の玄関口 空港では接客英語より一歩踏み込んだ会話力が必要とされる。

日本文化を英語で紹介するためのワーク活動を教員がサポートする方法を学ぶ。

連携内容：当該教育機関は、語学学習におけるセミナーを多数開催しており、教員が研修を受講することで連携している。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「Building Resilience」

(連携企業等：ラーニング・マスターズ株式会社)

期間：令和1年8月1日(木) 対象：全教職員

内容：自己分析を通してストレスをパワーに変える方法を学ぶ

連携内容：当該企業は、各種セミナーを行っており、教員が研修を受講することで連携している

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「Digital Materials and Devices for Teaching English」

(連携企業等：神田外語大学・神田外語学院)

期間：令和2年9月19日(土)または20日(日) 対象：夜間部教員

内容：英語授業のためのデジタル教材と機器について学ぶ

連携内容：当該教育機関は、語学学習におけるセミナーを多数開催しており、教員が研修を受講することで連携している。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名 「学生向け革新的思考能力向上講座」

(連携企業等：株式会社ビーコンラーニングサービス)

期間：令和2年8月18日(火) 対象：教務室教員

内容：「革新的思考法」を中核とした多様化する価値観の受容と思考のたが外しのプログラム

連携内容：当該企業は学校法人向けの研修を多く実施しており、教員が研修を受講することで連携している。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、学校が評価項目を設定し、自己評価を行う。自己評価結果は、地域や企業等委員で構成された学校関係者評価委員会において客観的な評価を受ける。全ての評価結果は専攻分野の教育活動及びその他学校運営の改善や工夫に活かしていく。また、自己評価、学校関係者評価ならびに改善方策等はホームページに公開し、広く社会へ公表することを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標 -理念・目的・育成人材像、特色のある教育活動、将来構想
(2)学校運営	(2)学校運営 -運営方針、事業計画、運営組織、コンプライアンス、情報公開、情報システム
(3)教育活動	(3)教育活動 -目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、免許・資格取得の指導体制、教員・組織
(4)学修成果	(4)学修成果 -就職率、免許・資格の取得率、卒業生・在校生の社会的評価 評価目標
(5)学生支援	(5)学生支援 -就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、保護者との連携、卒業生・社会人、高校との連携
(6)教育環境	(6)教育環境 -施設・設備等、学外実習・インターンシップ等、防災・安全管理
(7)学生の受け入れ募集	(7)学生の受け入れ募集 -学生募集活動、入学選考、学納金
(8)財務	(8)財務 -財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守 -法令基準等の遵守、個人情報保護、学校評価
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献 -社会貢献・地域貢献、ボランティア
(11)国際交流	(11)国際交流 -留学生の受け入れ、留学生指導
-	(12)職業実践専門課程 -企業等と連携した教育課程の編成、実習・演習等の実施、教員に対する研修、学校関係者評価の実施、情報の公開・提供
-	(13)観光・ブライダル分野における教育の質保証、特徴化に向けた取組 -教育体制、特色のある教育、学修成果

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教育環境のうち校外学習・インターンシップに関する設問に関して、委員より実習についてはエアライン業界に拘らず、異業界(ホテル等)で行うことで気付きや成長できるのではないかとの意見を頂戴した。職業実践専門課程を考える学科・業界の連動が必要ではあるが、教育効果として考えると仰るとおりである。短期で取り入れるなど、柔軟に検討する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
原田 正隆	千葉市民活動支援センター	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	地域
小亀 さおり	元公務員	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	地域
山口 晋司	千葉都市モノレール株式会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
横山 隆	株式会社千葉京成ホテル	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
岩崎 正佳	株式会社両総観光	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
齊藤 信也	ANAスカイビルサービス株式会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL : <https://www.ithb.ac.jp/information/>

公表時期: 令和2年11月頃公表予定

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則り、社会全体への情報提供し、説明責任を遂行する。また、企業との連携に資するため、特色ある教育活動及び学校運営に関する正確かつ適切な情報を積極的に提供する。情報やデータについては、収集・整理・更新を組織的に行い、継続的に質の保証・向上に向けて情報提供へ取り組むことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学園情報、学校基本情報、経営方針、危機管理への取組状況
(2)各学科等の教育	在籍数・卒業後の進路、就職先企業、入学者の受け入れ方針 学科・コースの教育、目指す資格・検定一覧、資格レポート 主要資格・検定合格率一覧、カリキュラム(シラバス)
(3)教職員	教職員(教職員数、組織図、教員の専門性に関する情報) 教職員研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリアプラン、就職支援、企業実習
(5)様々な教育活動・教育環境	クラブ・サークル、スクールイベント
(6)学生の生活支援	学生サポート
(7)学生納付金・修学支援	学納金、学費サポート
(8)学校の財務	財務状況
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価、教育課程編成委員会議事録 学校関係者評価委員会議事録
(10)国際連携の状況	留学生ホームページ、海外交流、留学制度
(11)その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL : <https://www.ithb.ac.jp/information/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートカーゴコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ホスピタリティⅠ・Ⅱ	様々なワークを通して「相手の立場に立って考え、相手を慮る心」であるホスピタリティマインドを育成し、あらゆるタイプの人とも上手に交流できるようになる人材を育成する。	1通	30	2		○		○		○		
○			ビジネスコミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ	社会人として必要なビジネスマナーを理解・実行できることを目標に挨拶や言葉遣い、接遇を学ぶ。	1前 2通	45	3	○	△		○		○		
○			Let's Speak EnglishⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	異なる国や文化の人々と積極的にコミュニケーションを身に付けるためにシンプルなキーセンテンスを応用して使えるような会話、リスニング、アクティビティを練習する。	1通 2通	60	4		○		○		○		
○			キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ	自己分析や社会の中での自分の強みや他者理解を学び、就職活動だけではなく、学生生活や対人関係、将来の仕事などに必要な姿勢を養い、社会に必要とされる人材を育成する。	1通 2前	120	8		○		○		○		
○			パソコン	パソコン検定3級以上の入力速度アップを目標とし、ワード・エクセルを含めたパソコン操作の基本を例題を作成しながら習得する。	1前	15	1		○		○		○		
○			就職筆記対策Ⅰ・Ⅱ	就職試験に多く用いられるSPI対策を中心に、就職活動における採用試験の“絞り込み”に勝ち残る基礎学力と仕事をする上で必要な基礎学力を身につける。	1通	30	2	○			○		○		
○			脳力開発Ⅰ・Ⅱ	心身ともに健康な状態で、社会人として長く活躍できるよう、メンタルトレーニングを中心とした脳の働き(脳力)を高める実践方法を学ぶ。	2通	30	2		○		○		○		
○			卒業研究Ⅰ・Ⅱ	自身の興味ある観光関連の中からテーマを決め、レポートを作成する。今まで学校で学び得た知識や経験などから情報を集め研究する。講師から指導を受けながら卒業までにまとめる。	2通	60	4		○		○		○		
○			国際交流	校内で異文化に触れることが出来る環境を活かし、留学生との交流を通して「文化」「習慣」の違いを学び、お互いへの理解を深めることを目的とする。	2後	15	1		○		○		○		

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートカーゴコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			企業実習	輸入貨物上屋見学や輸出貨物上屋業務など輸出、輸入、上屋での業務を、実際の体験をとおして理解する。	2後	60	2			○		○		○	○
○			TOEIC対策Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	TOEICによく出る英単語・熟語をテーマ毎に効率よく覚え、基本となる文法理解の定着を図り、航空業界が求めるTOEICスコアの取得を目指す。	1通 2通	150	10	○				○			○
○			エアライン企業研究Ⅰ・Ⅱ	航空企業ホームページを使った企業研究、関連書籍を通しての企業理念、フィロソフィを理解する。さらにグループで話し合い、企業の特徴を活かした企画・提案を考える。	1通	30	2			○			○		
○			時事研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	日々のニュースに関心を持つことを目標に新聞を読む習慣を身につける。	1通 2前	45	3			○			○		
○			時事研究Ⅳ	日々のニュースに関心を持つことを目標に新聞を読む習慣を身につける。	2後	15	1			○			○		
○			業界ガイド	航空業界へのガイダンスとして、空港内外の主な職種や業種について学び、航空業界に関する理解を深め、具体的な業務内容を学び、就職活動への足掛かりとする。	1前	15	1			○				○	
	○		中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	観光やビジネスで年々日本に来る中国人が増加している現状を鑑みて中国語の基本的な発音から始まり、日常会話から空港でよく使われるフレーズの会話まで習得する。	1通 2通	120	4			○				○	
	○		韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	映像を用いた授業で韓国語を目で見て・耳で聞き・口から発話することを反復練習し、場面に応じた実用的な会話ができるようにする。	1通 2通	120	4			○				○	
○			エアカーゴ入門(貨物の仕組み)	航空貨物業界で必要なコード、航空会社がどのように航空貨物を取り扱っているのかを学び、物流、国際輸送、航空貨物輸送の基礎知識を修得する。	1前	30	2			○			○		

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートカーゴコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			貿易実務 I・II	前期は貿易実務の基礎知識（契約、信用状、貿易条件=Incoterms）を修得して、後期は貿易実務の基礎知識（運送（船荷証券）、取引、貨物保険、代金決済など）を修得する。	1通	45	3	○			○		○		
○			ディプロマ対策 I	国際航空貨物取扱いに必要な基礎知識を修得する「基礎コース」の内、一般知識に関わる知識を学ぶ。	1前	45	2	○			○		○		
○			ディプロマ対策 II	航空貨物輸送に関する様々なルールを学び、IATA/FIATAが開催する各国共通の資格である「ディプロマ(Diploma)」の取得を目指す。	1前	30	1	○			○			○	
○			グランドハンドリング入門	グランドハンドリング業務を統括する企業様を訪問、またはエアライン企業現役社員様をお呼びし、グランドハンドリングについての知識を深め、業界に求められるスキルなどを学ぶ。	1前	15	1		○		○				○
○			グラハンエクササイズ I・II・III・IV	基本的な運動や格闘技を通じて精神力と敏捷性、持久性、平衡性など、健康的な身体をつくり、社会人として必要とされる他者と協働する力を鍛える。	1通 2通	120	8		○		○				○
○			ワールドディスティネーションズ I・II・III・IV	世界地図を使って、地図の読み方や世界の主要な国・首都・都市の具体的な位置の把握、エリアや気候を把握する。	1通 2通	90	4	○			○				○
○			アマデウス I・II	全世界の航空会社や旅行会社にとって必要不可欠なシステムとなっているアマデウスの国際線予約基本操作を習得し、アマデウスシステム検定試験Specialist資格取得を目指す。	1通	45	3		○		○				○
○			Airline English I・II・III	航空業界で働く際に遭遇する場面での「使えるフレーズ」を覚えることで、英語での対応能力を養う。	1後 2通	45	3		○		○				○
○			エアカーゴ実務 I（税関／海上）	エアカーゴ（航空空貨物）以外に関わる業務で、国際物流の主流である「海上貨物輸送」及び輸出入通関を始めとする「税関の仕事と役割」、及び「物流」の3点についての知識を学ぶ。	1後	30	2		○		○				○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートカーゴコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ワールドカーゴビジネス	「国際航空貨物とその業界の動向を通して世界の実情・現状」に関するアップデート(最新)の知識を学ぶ。	1後	15	1	○			○	○			
○			グランドハンドリング実務	グランドハンドリング業務を統括する企業様を訪問、または、エアライン企業現役社員様をお呼びし、グランドハンドリングについての知識を深め、業界に求められるスキルなどを学ぶ。	1後	15	1		○		○		○		
○			ディプロマ講習	IATAディプロマ(国際航空貨物輸送士)資格取得を目指し、過去問題集や業界団体主催の講習会問題集の解説・演習を中心に国際航空貨物取扱いに必要な基礎知識を修得する。	1後	15	1	○			○	○		○	
○			Airport Study	成田国際空港と羽田空港で実際に活躍している航空関連企業を見学し、業務内容や現場を知る。また、企業より直接講義や説明を受けることで航空業界の現状を直に学ぶ。	1後	30	2		○		○	○			
○			海外語学研修	空港でのチェックイン、国際線における客室乗務員の業務など、座学で習得した知識を実際に体験するとともに海外生活を通して英語コミュニケーションスキルを磨き、異文化を理解する。	1後	30	2		○		○			○	
○			パソコンスキルⅠ・Ⅱ	例文をみて、ビジネス文書を作成、エクセルデータをグラフ化し視覚的分析力を修得する。また、パワーポイント操作などを学びプレゼンテーション資料の作成を修得する。	2通	30	2		○		○			○	
○			エアカーゴ実務Ⅱ(フォワーダー)	国際航空貨物を取り扱う中心的な存在である「航空貨物代理店(フォワーダー)」における必要不可欠な業務知識を学ぶ。	2前	30	2	○			○	○			
○			貿易実務検定C級対策	1年生で学んだ貿易実務について、そのレベルを確認するため「貿易実務検定C級」受験及び合格を目的とし、「貿易とは？」という基本的な知識を修得する。	2前	15	1	○			○	○			
○			危険物取扱講座Ⅰ・Ⅱ	航空機の搭載規則を学び、危険物の分類や危険性、危険物申告書の作成、マーキング・ラベリングの規則を理解する・航空安全に対する意識を醸成する。	2通	30	2	○			○			○	○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートカーゴコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			航空機研究	航空業界で働く上での基礎知識である航空機とその周囲で働くスタッフについて学ぶ。また、航空機事事故事例から“空の安全”について考え、安全に対する意識をもって仕事ができるように理解を深める。	2前	15	1	○			○			○	○
○			空港旅客サービス入門（旅客の流れ）	空港での「人」の流れと、それに関わる航空業界の知識を習得する。	2前	15	1	○			○		○		
○			異文化理解Ⅰ（韓国）・Ⅱ（中国）	韓国・中国から来日したお客様に円滑に対応できるように各国の事情を理解し、教養を身につける。	2通	30	2	○			○			○	
○			国内観光地理Ⅰ・Ⅱ	日本の有名観光資源について、基本的情報を学び、さらには「国内旅行を楽しむ3テーマ」（駅弁・日本神話のふるさと・日本のパワースポット）を理解すること。	2通	30	2	○			○			○	
○			電話対応ベーシックⅠ・Ⅱ	発声・発音、電話の受け方・かけ方、定型的な言い回し、伝言メモの書き方等電話対応の基礎を固め、実践ですぐに役に立つ電話対応を学ぶ。	2通	30	2	○			○			○	
○			手話講座Ⅰ・Ⅱ	実際に聴覚障害者を持つ人との日常的な接し方、バリアフリー・コミュニケーションの手段を学び、また、接客に対応できるよう手話表現を身につけることを目標に学ぶ。	2通	30	2	○			○			○	
○			空港あれこれ	「新幹線」と「航空」の構造を比較し、利用者の観点から航空利用にあたっての必要不可欠な知識を学習する。	2後	15	1	○			○			○	
○			リスクマネジメント	空港や機内などでのとっさの手当や予防に役立つ知識の習得及び災害時に起きることや取るべき行動について学ぶ。また、赤十字ベーシックライフサポーター資格の取得を目指す。	2後	15	1	○			○		○		
合計					42科目		1725単位時間(105単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1. 卒業基準単位の取得、2. 定められた期日までに学費を納入	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。